

# ホットライン とよおか、

1988豊丘村勢要覧



## プロフィールとよおか



緑と清流の郷

日本一のりんご村



特産品・まつたけ

古の散歩道



## ホットラインとよおか

好奇心いっぱい!  
ボクたちは  
「元氣のかたまり」

明日の村へ...  
僕らの願い。

「ふれあい」が  
あるから  
面白い。



人も村も「顔」は  
自分で創りたい。



笑顔を  
忘れないでいたい。

やる気があれば  
「即ち、青春。」

着実な施策を  
目指して



## ビジョンとよおか



豊かな村  
緑と太陽と清流の

活気あふれる  
働きものの村



住民総参加、  
文化の香り高き村

温かな心の  
かよい合う村

安心して快適に  
くらせる村



豊丘村そぞろ歩き[イラストマップ]  
ぷらつと散歩「豊丘らしさ」が見えてくる。



豊丘村は、昭和30年の新村発足以来、緑と太陽と清流の郷として恵まれた自然条件のもとで、産業・文化の振興、住民福祉や教育の充実など、数々の施策を推進してまいりました。

果樹を中心とした農業が発展し、工場の団地化により工業出荷額も伸び、着実な歩みを見せています。また近い将来、竜東一貫道路の開通や農業集落排水事業による下水道の完備などの施策も行われようとしています。

一方、広域に目を向けると、三遠南信自動車道の早期開通が叫ばれ、中央リニア新幹線の誘致など、飯伊の環境は大きく変わろうとしています。

このような時代背景の中で、村としての主張をもち、村政と村民のパイプをより太くしていくことが望まれます。住民一人ひとりに自分の村・地域の一層のご理解をいただき、皆様と共に村づくりを進めてまいりたいと存じます。

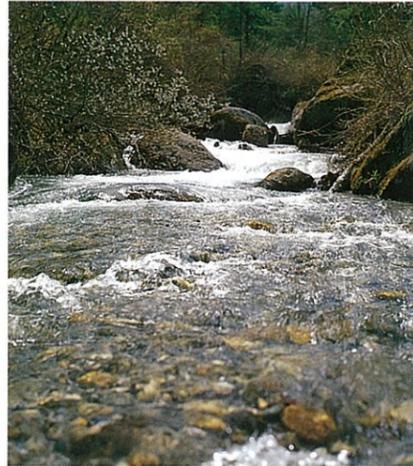
ここに村の今日の姿をまとめた小冊子を作成致しました。作成にあたり、様々なご協力をいただきました村民各位に感謝を申し上げますと共に、本冊子が村づくりの一助にならんことを祈念して、発刊のご挨拶と致します。

昭和63年12月 豊丘村長 菅沼一寿



## 目次

ごあいさつ	I
目次	2
プロフィールとよおか	3
緑と清流の郷	3
日本一のりんご村	4
特産品・まつたけ	5
古の散歩道	6
【最新版】豊丘ニュース	7
ホットラインとよおか	8
好奇心いっぱい、ボクたちは元気のかたまり	9
明日の村へ僕らの願い	11
“ふれあい”があるから面白い	13
人も村も“顔”、は自分で創りたい	15
笑顔を忘れないでいたい	17
やる気があれば「即ち、青春」	19
着実な施策を目指して	21
ビジョンとよおか	22
緑と太陽と清流の豊かな村	22
活気あふれる動きものの村	23
住民総参加、文化の香り高き村	24
温かな心のかよひ合う村	25
安心して快適にらせる村	26
豊丘村そそろ歩き [イラストマップ]	27
位置と地勢 / 沿革	29
村民憲章 / 村歌	30



豊丘村は、伊那山脈を背景に、四季に移りゆく豊かな自然に彩られています。樹木の緑は、初夏の青空にひととき映え、山の息吹を伝えてくれます。近年急速に増加した果樹園は、のどかな風景をかもしだしています。また、天竜川に注ぐ村の主要河川は、丘陵地を切り込み、素晴らしい渓谷美と日本一の河岸段丘をつくりだしています。一年を通じ比較的温暖で、降水量の多い気候にも恵まれ、村の各所にはありのままの自然が残っています。



甘くほのかな香りを漂わせ早春を告げるこぶしの花。泉龍院の三色藤は、微妙に色を変え花房を垂らす。木々の間に水音が響く新九郎の滝、清流に映る紅葉が鮮やかな虻川渓谷など、多彩な表情を見せてくれる。

# 緑と清流の郷

太陽が西に傾くとき陽をうける地帯は、味の良いらんごが収穫できると言われています。昼夜の温度較差の大きさが色付きをよくし、甘味を増してくれるのです。水はけのよい土壌も備わり、信州りんごの代表、豊丘の「ふじ」は、日本一と言っても過言ではありません。また、豊丘村は他の果樹栽培も盛んです。恵まれた自然条件の下で作られる豊丘産のくだものは、新鮮でみずみずしく、信州のくだものの中でもひとときおいしいものばかりです。



日々たゆみない栽培技術の研究が続けられ、果樹栽培は行われている。りんごをはじめ、果汁たっぷりの梨、独特の舌ざわりがする桃、多量のビタミンAを含む柿と、夏から冬にかけて豊丘村は旬の味覚を欠かさない。

# 日本一のりんご村



# 特産品・まつたけ



秋の味覚の王様松茸は、香り、味とも日本人の食欲をそそります。また秋の風物詩として年に一度は味わってみたいものです。その松茸が豊丘村の山では、豊富に採れます。九月上旬頃になると、松茸は秘かにムクムクと頭を出し、ゆっくりと笠を開いて収穫を待ちます。松の根に菌根をつくって共生する松茸は、椎茸風の栽培はできません。年産一億円以上といわれる豊丘村の松茸は、多くの赤松林におおわれた村の自然の恵みなのです。

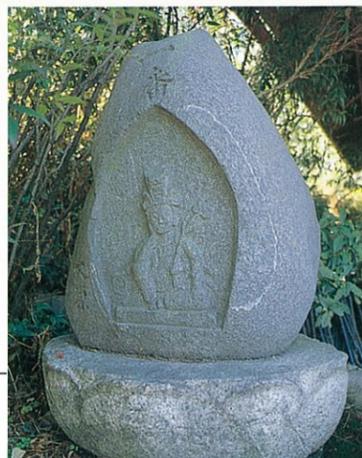


地域の人々が運営する堀越の松茸観光は、村の観光事業として定着している。区民会館を会場とし、年々設備、サービス共に充実。売店では松茸はもちろん、村のいろいろな特産品の直販も行い、県外からの観光客も多数訪れている。

# 古の散歩道

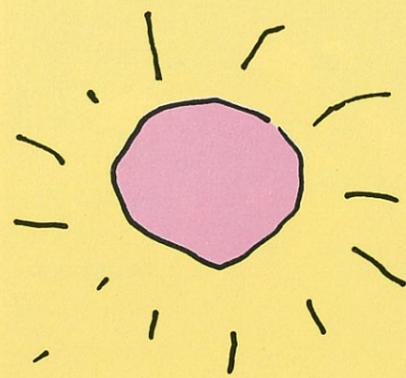
いにしえ

いつの時代も、人々は自然との対話の中で生活してきました。台風や洪水、冬のしみいる寒さに悩みもすれば、春の芽生えに希望を感じ、秋の収穫に感謝もしました。そしてこの自然風土のなかで、豊丘村の文化ははぐまれてきたのです。素朴な暮らし、昔ながらの民家のたたずまいは、温かいふるさとの姿をとどめています。受け継がれてきた産業や工芸品、年月を経た史跡や文化財は、その歩みを今に伝えます。



かつて養蚕の隆盛期、飯田・下伊那地方は大いに繁栄した。飯田周辺の村々で桑をつくり、蚕を育て、町で糸をとり、県外で売るといった理想的な構図ができていた。そんな歴史を物語る数々の史跡や民家は、豊かな自然のなかで生きてきた人々の想い——豊丘村のもうひとつの顔——を見せてくれる。

# ホットライン とよおか、



## 大好評、自らの手で りんごの収穫を！

りんごオーナー制

二年目を迎え、ますます好調なりんごオーナー制。五月のゴールデンウィークの花見に続き、八月下旬より、自分のりんごを目で、舌で、肌で味わおうと、続々来村。迎える農家・農協も対応に大わらわ。味覚だけでなく、村のアピールを兼ねた観光事業として、新たな取り組みも検討されている。

りんご販路拡大のため、農協が昨年試みたオーナー制は好評を得、今年は業者の仲介をなくし、農協独自の事業としてさらに力を入れてきた。全国紙でのオーナー募集がものすごい、愛知、岐阜県等東海地方の人を中心に、五百二十七本の契約がかわされた。

穫までの栽培を管理し、オーナーは収穫期保証分のりんごを受けとる。また、収穫に訪れ自由に取ることもできるという制度だ。

八月から九月にかけて、収穫を心待ちにしていたオーナー達が、自らの手でもぎとりたいと村を訪れた。「りんごがとて大きくて驚いた」「りんごはとて美味い、何よりも自分で収穫できることが一番嬉しい」と、農家の一日を十分満喫した様子。そして「来年もまた来たい」といった声も多く聞かれた。

現在、収穫の程度、収穫期、価格低迷への対応の理由により、つがるのわい化木を対象としているが、将来は成木の「陽光」「千秋」等他品種も取り入れていくことも考えられている。

都会の人達には空気が自然など環境は好評なもの、当初から心配されていた道路事情の悪さ、駐車場・施設の不備を指摘された。また初秋の信州にきたからには一泊したい、川で遊びたい、テニスをしたいなどレジャー志向も強かった。

今後、オーナー制が村の観光事業としてどのように進んでいくか、生産者・農協・村の三者一体となった今後の対応が注目される。

### 最新版 豊丘ニュース



## 世界に見せた アマの情熱

酒井浩文選手

さわやか堂々二十六位

今年、史上最高の百六カ国が参加した第二十四回オリンピックソウル大会が、九月十七日より開催された。日本からは三百三十七名の選手が参加、その内二十キロ競歩に、豊丘村大柏の酒井浩文選手が出場した。飯伊地方からの五輪出場は五十年ぶりということもあり、豊丘村ではソウルへ応援団を送るなど、村を上げて酒井選手の健闘を祈った。

二十キロ競歩は、九月二十三日現地時間午後一時五十分、メインスタジアムを出発、二・五キロのコースを六往復するコースで行われた。天候も良く、むし暑い中、六十数名の選手がゴールを目指す。酒井選手は、体格的にも勝る外人選手に一步もひけをとらない歩

## 学び合い、ふれあいの輪が広がる

農村婦人大学開校

「農村婦人に学び合いの場を」と婦人会・公民館共催の講義方式による「農村婦人大学講座」が昨年十二月より開校した。

講座は、月一回。村の歴史を中心に各々の専門家を講師に頼んで学習する。今までに行われた内容は、「古代の豊丘村」「中世以降の豊丘」「武田信玄の人間像」「松尾多勢子」など。毎回研究室は婦人で一杯になり、「改めて豊丘の良さを教えていただいた」「次が楽しみです」などの感想が聞かれた。同じ村の者どうしが、共通のテーマを学習する中で、人と人とのふれあいの輪が広がっている。



後援会会長でもある菅沼一寿村長は「酒井選手は、我々の期待に応えよく頑張ってくれました。代表選手に決定以来、各地で強化合宿を続けてきた訳ですが、皆の期待と激励に応えなければという心の重圧に耐えながらの毎日、本当に大変だったと思います。心より「ご苦労様」とその労をねぎらいたい」



乳児検診

# 好奇心いっぱい! ボクたちは 「元気の かたまり」

現在豊丘村では、1カ月平均約6.6人の赤ちゃんが生まれています。保育は村内の3つの保育所で行われ、施設整備と保育内容の充実が進められています。また、3歳未満の乳幼児医療費全額補助、こども会安全会掛金全額補助、慈恵園児の招待慰問を実施しているほか、自然の中で楽しく遊んでもらえるよう、各地区に児童遊園を設置しています。



お父さんやお母さん、多くの人達に祝福されて小さな命が誕生します。その命が健やかにのびのび育つことは、誰も願っています。やがて新しい時代をしようとするこの子達に、村の夢と希望を託し、村は見守り続けていきます。

## 「ボクたちのひとりごと」

ボクたちは村の仕組みはよく分からないけれど、生まれたその日から村づくりにかかわっているそうです。役場には“戸籍簿”というものがあって、そこに名前が載るとボクたちも村の一員となるんだそうです。そしてボクたちは丈夫に育ち、一人でも生きていける知恵と力がつくまで、村の人たちの温かい眼差しの中ですくすく育っていくのです。

生まれてから3年間位は、ほとんど家族と一緒に暮らし、お母さんたちがボクの面倒をみてくれます。でもその指導は村の保健婦さんがしてくれるそうです。幼児検診や予防接種は怖いけど、村できちんと通知してくれるので、お母さんも喜んでいました。

このころのボクたちの日課は、元気いっぱい遊び、ご飯をたくさん食べて、よく眠ることです。村には高くててっぺんが見えない木や、いろんな森の動物がいるし、おもいっきり遊べる広い公園が

あるので面白いです。もう少し大きくなったら、お父さんが鬼面山に連れて行ってくれる約束もしてくれました。

ボクたちは普通4歳になる年に、保育園に入ります。朝おうちを出て、車に注意をしながら歩いて行きます。村のお巡りさんが交通のことを教えてくれました。近所のおばさんたちも見守っていてくれ

るので、元気にあいさつをしていきます。保育園では、たくさんのお友達とお遊戯をしたり、お歌を歌ったり、砂遊びをしたりします。それからもっと、楽しみなのは、給食の時間です。丈夫に育って下さいと、栄養のある物をバランスよく食べられるよう、給食のおばさんが心を込めて作ってくれます。



交通安全街頭指導



保育園年寄り参観





公民館報編集会議

自由な発想、躍動する若さ。  
夢を現実にしていく力をもつ若者。  
“今はバイクに夢中です”  
“趣味は映画を見ることかな”  
“友達とワイワイするのが楽しい”  
時代によって流行があるように、  
若者文化も世代ごとに違いますが、  
体力と行動力は、  
いつの世も若者の特権です。  
“今の若いもんは……”  
なんて言わせません。

豊丘村にも多くの若者が住んでいます。しかしその多くが村外企業に就職し、生活のほとんどの時間を村外で過ごしています。買物や遊び、友人関係も村外に片寄りがちですが、村の活性化に一役買えるように頑張っているグループもあります。その中心的存在が青年団です。村の文化祭にむけて模擬店準備にお忙しい中、お話を伺いました。

## "ふれあい"があるから 面白い。



### 青年団について

「現在14人。18歳から27歳まで。退団は原則的には何歳というのではありませんが、結婚したり仕事の都合で出れなくなると辞めていきます。以前は、週4日くらいは集まって活動をしていたのですが、今はそんなにできません。主な活動はスポーツや村の行事への参加です」

「入るきっかけは、姉がやっていたこともあったし、同級の友達に誘われて入りました。結局、仕事が終わって食事して寝るだけじゃつまらないと思う」

「実際やって楽しいですよ。仕事のあとですから疲れるのは当然ですが、やらなきゃという気持ちもあります」

「普段は集まって、世間話してるけど、何か行事に向かって皆でやっているときは楽しい。スポーツ祭、文化祭なんか、目的を決めて皆で一生懸命するっていうと思う」



### 村について

「落ち着いたって住みやすい。賑やかな所はないけれど、のんびりしていて良い。たまに都会に行って、街なんか歩いていると辛くなります。私の家は一段上の山の中の一軒家のような所なのですが、自然、山がいいと思います。でも、逆に言えば自然しかないような気がしますけど」

「自然の他には何にも無いね。ちょっとパチンコするって言っても村ではできないもんなあ。特に道を何とかしてほしい。そう言った点では、竜東一貫道を早く開通させて欲しいですね」

「他に、県道から中段の山間部までの道を整備すれば、村には土地なんかいっぱいあるから、ゴルフ場や娯楽施設もつくることも考えられると思うけど」

「人が好きです。都会なんかでは、近所づきあいが全然ないみたいだし、自分さえ良ければ良いといった考えの人が多けれど、豊丘には、やさしさ、和やかさといったものがあると思います。私は就職を決めるとき、県外も考えたのですがやっぱり豊丘で暮らしたいと思ってやめました」

### 今後の活動について

「何かをしたいですね。若い人たちがまとまりをもってできるものや機会をつくって、例えばお祭でも、やっていきたいです」

「若い人たちが先に立ってできることをやって、何かやったなと思えるようにしたい。それで村にいて楽しいなと思えるようにしていきたい」

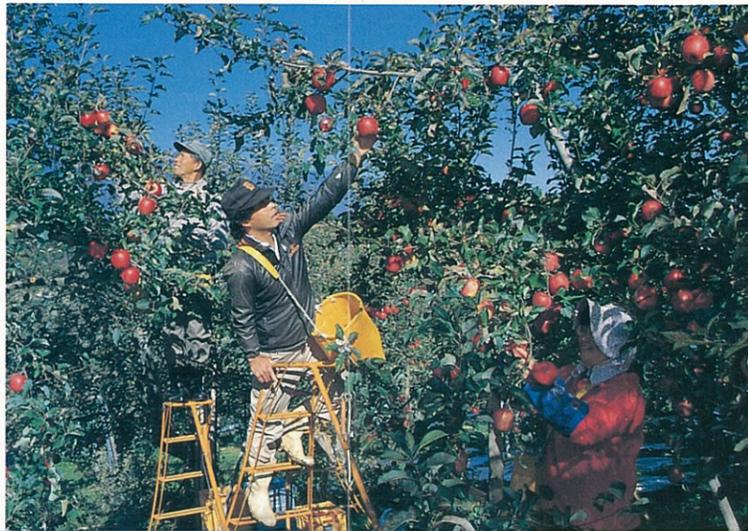
豊かな自然の中で、豊丘村は農業や地場産業を中心に発達してきました。

農業については、畑地帯総合土地改良事業をはじめとする、大型補助事業により、各種近代化施設が整い、以前からの稲作・養蚕中心の農業経営から、果樹・畜産が村の中心作物にかわってきました。特に果樹は、りんごに代表されるように品質日本一を誇る村の農業の基幹となっています。

また商工業については、中央自動車道西宮線の開通以来、首都圏・中京圏との時間的距離が著しく短縮され、経済面を中心にあらゆる分野に大きな変化がもた

らされました。特に工業においては伴野工業団地が完成し、従来からの木工・食品・繊維産業に加え、精密・電子といったハイテク産業の部品供給地区として、目覚ましく伸展しています。近い将来の三遠南信自動車道開通も、村の産業振興に果たす役割は大きなものと考えられています。

自然・技術・交通ネットワークのすべての面で、バランスのとれた産業の村、それが私たちの豊丘村です。そしてそれを頼もしく支え、担っているのが、壮年層の男性です。皆さん、家族・村のために頑張っています。



時代は正に日進月歩、変化が早くて儘、勘違いをするような今日この頃ですが、当村の農産物の価格は低迷し先行き不安で、青少年諸君は農業を敬遠するのにも無理はない事です。しかし燈台下暗しと言われますが、この豊丘村こそ何処でも真似のできない変化に富んだ地形環境による影響の大き



## 清流を生かして村の活性化を

山田 江崎恒穂 (六十一歳)

光資源とし、雨期の洪水調整にもなるし、必要に応じ灌漑用水にも生活用水にもできるわけで、設備投資は容易ではないが、英知と努力と協力ができれば何とかなるのではないかと思います。こ

の水利用如何では計り知れない貴重な宝物ができそうに思います。何とかこの際一つでも多く堰堤の誘致をお願いしたいものです。国の資源を守る事にもなり、村内の土木事業も盛んになり、政府の内需拡大に合せ、円高により資材輸入も有利とあらば甚だ色々良

い機会だと思えます。従って水利に恵まれるならば、村の特産物はまだまだ多種多様なものが増産され、広域農道にて流通機構も良くなり、有利販売が公道沿いには中小企業は勿論、公共施設も誘致され特に学校・病院等は空気の良い自然環境の所に建設すれば最

適だと思いません。従って就職口も多くなり、若者が村に留り都会との人事交流も盛んになり、活力ある村となれるでしょう。高齢化で耕作不能の土地も貴重な存在となり融通し合うよう、今こそ慎重且つ真剣に考えるべく、村民全体の課題ではないでしょうか。明日の事より今日でなく、今日より明日、明日より二十一世紀へと、限

られた国土をより一層有効に利用できますよう心がけたいものと思えます。何れにしても近隣周辺に比較して、就職場が少ないように思います。従って現在少数の村内企業を大切に、より良く成長し易い環境になるよう協力すると共に、清潔な空気で環境の良

い大自然を売り物に、優秀な良質の企業が誘致され、若い人達の就職口が沢山でき村の活力となる事を期待します。



人も村も「顔」は自分で創りたい。

# 笑顔 忘れないでいたい。

いつも明るくお母さん、朝一番に起きて掃除、洗濯、ご飯の支度と、忙しく家事をして、家族を送りだしてくれ、勉強しなさい、お風呂に入りなさい、なんでも食べなさいと、うるさく思える口癖はたくさんありますが、すべて家族の健康と幸せを願っての言葉です。仕事をもつお母さんも増えましたが、時代の多様化の中で益々忙しい生活ですが、家庭を大切に守り続けるお母さんを村は応援しています。



健康教室

家族の健康はお母さんの最も切実な関心事であると共に、村全体の願いです。「健康管理・健康づくり」は、村の保健婦さんが中心となって取り組まれています。また健康の源である食生活が充実するよう、お母さんはいろいろ工夫して料理を作ってくれます。お母さんがいつでも新鮮で安全な食品を安く購入できるように、村では学習会などを行っています。



母と子の料理教室

家族の健康を願うお母さんたちも、スポーツ活動を通じ健康づくりに励んでいます。地区単位で編成される多くのスポーツグループは、バレーボール、ソフトボール、インディアカなどを練習し、村内リーグ戦でその技を競っています。家庭の都合で集まる日時に苦労しているようですが、運動でストレスを解消し、身も心もいつまでも若いままで、ファイトに溢れさわやかな汗を流しています。

安全で快適な生活もお母さんの願いです。村では、簡易水道の整備、ゴミ・し尿処理などの環境衛生の充実を図っています。また災害や事故はいつどんな形で起こるか分かりません。貴重な生命を守るため、飯田地区広域消防組合の加入により、災害への組織強化が行われたり、より強力な消防団の育成に力を注いでいます。昭和62年3月には、村内全域に同報無線施設が完成し、非常時の迅速かつ確実な情報伝達により、安全確保と被害の軽減に大きな効果を発揮するものと思われれます。他に、総合防災訓練や交通安全指導など、積極的にを行い、村民自身の防災意識向上に働きかけています。



●それではお子さんとのコミュニケーションの時間はどうされていますか？  
「ぜんぜんかまってあげられなくて、だから子供の方から“クッキーつくろうよ”って言われてしまいます。」

「私なんか、子供に借りができてちゃって。春は忙しいから秋になったらしようねと言って、そうして秋になったら秋で忙しくて。待ってて、待っててと言ってばかりです。」

「でも、子供にある程度任せておくと、子供たちが兄弟分担をして、やってくれます。」

「そうですね、仕事やお義理で忙しいときカレーでいいから作っておいて頼むと、その気になって一生懸命やってくれるんですよ。」

「うちは今年、富士市の中学生の農村体験を受け入れたのですが、おにぎりってどうやって作るの？なんて聞かれてびっくりしてしまいました。母親が考えていたんじゃないですか？」

「結局親も子供と一緒に成長していかなくてはならないですよ。」

●皆さんは農家に嫁いでこられましたか、“農家の嫁さん”は振り返ってどうでしたか？

「人間関係や金銭的な面でつらいこともありましたし、農業をやっていくことも大変でした。でもいい仕事だと思し、得るものがたくさんあったように思います。」

「子供に“お母さんはいつもヤッケなんか着てお化粧もしないし、働いてばかりで何が楽しいの？”と聞かれることがあります。そんな時は、“おいしいりんごやとりたての野菜が食べれていいじゃない”と答えます。子供にはつらい顔を見せたくないですから。」

## 「働く農家のお母さんにインタビュー」

家庭の健康に気を配り、子供の成長に頭を悩まし、安定した生活を願うお母さん。主婦として、母として、妻として、悩みもいろいろあるのです。

村づくりというと、工業団地をつくり、道路を広くしたり、とかく大きな施設などに目を奪われがちですが、お母さんの目で村づくりを考えていくと、ごく身近でとても大切な問題点に気が付くかもしれません。

村の農家のお母さん方に、日頃の悩みなどを伺いました。

●毎日お忙しいと思いますが、その中で“自分の時間”を持てることはありますか？

「なかなか持つことはできませんね。ありそうなんです、無いんですよ。外の仕事が終われば、洗濯物の取り込み夕飯の支度と家事が次々とあって。」

「うちにはおじいさんとおばあさんがいるのですが、体の具合が悪くなると私が病院に連れていかなくてはなりません。片道30分はかかるし、診てもらって帰ってくると、どうしても2、3時間はとられてしまいます。」

「そうですね。特に目医者と耳鼻科は豊丘村にはないから、苦労しました。診療所に目と耳のお医者さんが週2、3回でも来てくれたら助かるのですが。」

「どうしても、飯田まで通うとなると大変ですからね。なんとかお願いしたいですね。」



防災無線放送室



おどりグループ

# やる気があれば

すなわ

# 「即ち、青春。」

豊丘村では今年、七十歳以上の老人は約千人、全体の十三%となりました。確実にやってくる高齢化社会に向けて、豊かな地域福祉の創造に力を入れています。明治・大正・昭和と村を担ってきたお年寄りの皆さんに、どのように恩返しをすればよいか、精神的にも肉体的にも弱くなりがちな皆さんにいきいき甲斐をもって楽しく暮らしてもらえるか、村は様々な角度から検討しています。

村には、青空の下ではつらつとプレイするゲートボールチームをはじめ、高齢者で組織する活動グループがたくさんあります。その中の一つ「高齢者手芸グループ」の皆さんは、村の文化祭に手芸を展示しています。このような活動を楽しみ、家にこもりがちな独り暮らしのお年寄りの参加を呼びかけ、お互い励まし合いながらより活発に活動しています。

そんな皆さんに喜んでいただこうと、村でも種々の福祉政策を実施しています。

給食サービスは、食生活改善推進協議会員の手助けを得て、昭和62年の4月から年4回計画で行われています。各家庭へお弁当をお届けするシステムですが、たまには顔を合わせていただこうと、保健センターで年1回昼食会も開いています。心のこもった料理と団らんで、皆さんに喜んでいただいております。

また、毎年9月には皆さんの健康と長生きを願って、敬老会も開催されています。趣向をこらした催し物で和やかな笑いを誘い、好評を得ています。

この他、ヘルパー派遣、訪問看護、高齢者学級と、村全体が相互扶助の精神で助け合い、安心を根底に生き甲斐のあるシルバーライフを送っていただけるよう盛り上げています。



給食サービス



ホームヘルパーによる在宅サービス

## 好かれる老人に

96才大相 菅沼庄之助

明治、大正、昭和と一世紀を生きて、八回目の竜年を迎え九十六才になる。長い人生行路であったと思う。戦争が終り、ここ数十年らい平和で世の中も進歩しすべてのものに恵まれた。今、嫁や息子も大事にしてくれるし何の不自由もなく、

家庭の温もりの中で、日々暮せることはありがたいと思う。

昨年、大病みをして家族や皆様に迷惑をかけてしまったので、自分の身体のことを考え、無理しない程度に身体を動かしたり、本や新聞を読んでいる。あと三年で私は白寿を祝う年になる。信頼され、好かれる老人でいたいと思う。

## いつまでもいつまでも

96才駒沢 塩沢 常の

歳月の流れは早いもので八回目の竜年を迎え、九十六才になりました。十九才の時に結婚して以来、十人の子供を産んで、それからは子育てに追われっぱなしの年月でした。子供達も生長してそれぞれに結婚したので、やれやれと思う間もなく私が四十八才の時に主人が亡くなり、その後はずっと一人暮らしでしたが、十人の子供の所へ一ヶ月位ずつ、行っては世話になっていました。

私も老令になり、六年前に駒沢の娘の家へ来てずっと世話になっております。今は寝たきりになりどこへも行かれないので、朝目がさめるとすぐにテレビをつけて見るのが楽しみです。これからは少しでもいい年寄りになり、家族の人に好かれる様になりたいと思います。





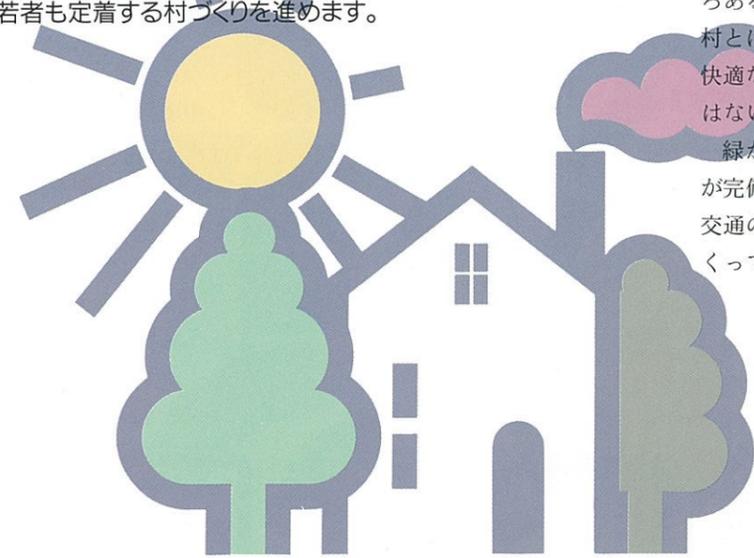
# ビジョン 1

## 豊かな村 緑と太陽と清流の

恵まれた自然の中で、村民1人ひとりが明るく快適に暮らせる村を目指します。そのために、村の自然を守り、生活の基盤である水や土地を保全し、道路整備等の生活環境の改善に努め、若者も定着する村づくりを進めます。

皆さんの住みたい村とはどんな村なのでしょう。面白くてたまらない夢一杯の遊園地村、のんびりゆったり憩いの温泉村、活動的にヘルシーなスポーツ村と、答えはいろいろあるでしょう。しかし住みやすい村とは聞かれたら、“生活環境の快適な村”の一言で集約されるのではないのでしょうか。

緑がいたる所にあり、上・下水道が完備されていて、街並が美しく、交通の便がよい、そんな村の姿をつくっていきます。



竜東一貫道路建設予定地



(左より) 三役 収入役 村長 助役



(左より) 副議長 議長

## 着実な施策を目指して

恵まれた山紫水明のたたずまいの中に、文化の香り高い明るく住みよい農村を目標とし“緑と太陽と清流の村”のキャッチフレーズのもと、様々な施策に取り組んでいます。

そして住民1人ひとりとの対話の中から、住民1人ひとりの参加により、より豊かな村づくりが築かれるものと考えます。また充実した行政を推進するため、健全な財政の推進に努めています。

村民の声を村政に反映させ、村の進路を決める議会は、現在18名の議員で構成されています。年4回の定例会と必要に応じて臨時会が開かれます。各議員は総務・社会・土木・経済の各常任委員会のいずれかに属し、専門分野で活動しています。

村長さん、ある日

11月24日(不) 雨のち晴れ

AM 8:20 出勤

8:30~ 執務

11:00~ 中部電力用地課長来庁面談 (昼食)

PM 1:00~ 経済委員会出席

3:00~ 角線「村長さんこんにちわ」録音

3:30~ 経済委員会出席

5:00~ 執務

6:30 帰宅

## ビジョン 2

# 働きもの村 活気あふれる

村の風土を活かし、産業を発達させ、経済に活力をもたらし、若者からお年寄りまでだれもが働きがいのある村を目指します。そのために、農業を中心に商工業との調和のとれた産業全般の振興を図り、土地利用、地域整備、交通通信の体制の充実を進めます。



結婚を考える時、愛情面はもちろんですが、生活力も一つのポイントです。生活力の無さは貧困を招くだけでなく精神を不健全にします。村を支える“生活力”は産業にあります。

産業が発達すると、村全体が活気づいてきます。豊丘村の産業は農業中心。品種改良が進み大型機械が導入されれば、良質な作物が豊富に収穫できます。道路ができれば、作物を新鮮なうちに市場や工場へ運べます。

また村の土地を有効に使えば、商工業もより発展します。

新しい時代に向けて、安定した産業を守り育てていくのも大きなテーマです。

伴野工業団地

## ビジョン 3

# 文化の香り高き村 住民総参加、

郷土に根をおろした学習を通じ、豊かな人間と文化が育つ村を目指します。そのために、村の歴史と文化を愛しそれを継承していくと共に、スポーツ大会や講演会、レクリエーションや勉強会の機会を増やし、住民総参加で教育・文化の向上を図ります。



家庭づくり、村づくり、地域づくり。すべての基本は「人づくり」です。

国語に算数、理科、社会。たくさんを知るとそれだけ多様なものの見方・考え方ができるようになります。多くの経験がその人の糧となっていきます。美しい風景や快いメロディは、感性を豊かにします。

学習や学校生活を通じ、子供たちが個々の個性や創造性を伸ばしていけるよう、教育環境とシステムをよいものにしていきます。そしてすべての村民も、生涯にわたって、いつでもどこでも学習できるように、社会教育環境と条件を整えていきます。

またふるさとの歴史を再発見・再認識し、魅力ある“豊丘らしさ”を見つけていきます。

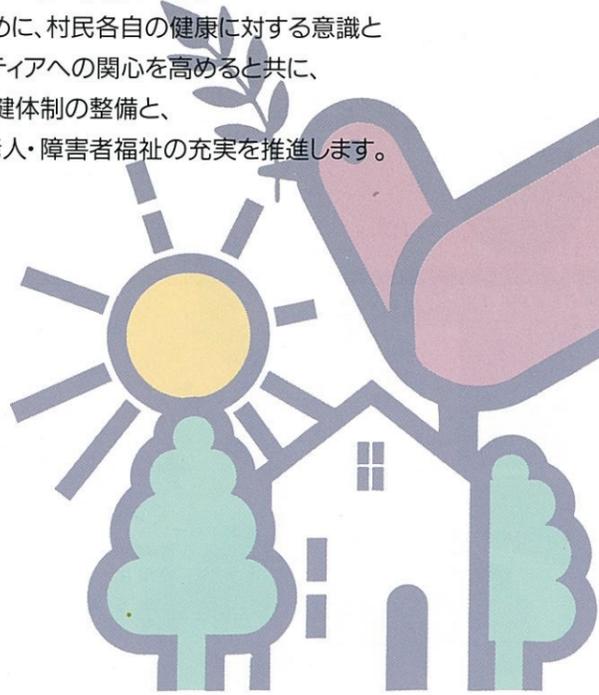
中学生による梨の袋かけ体験学習



# ビジョン4

## かよひ合う村 温かな心の

すべての村民が、思いやりと安らぎの中で生活できる村を目指します。そのために、村民各自の健康に対する意識とボランティアへの関心を高めると共に、村の保健体制の整備と、児童・老人・障害者福祉の充実を推進します。



「やさしさ、思いやり、助け合い、愛情、信頼」という言葉と、「無視、不信感、不安、差別」という言葉。どちらが好きですか。人それぞれでしょうが、後者はマイナスのイメージを感じさせるのに対し、前者はプラスイメージを感じさせます。前者は子供が慕うようなお母さんの温かさを持っているからです。

人はそれぞれ顔も違えば、立場や生活も違います。しかし幸せになる権利は誰もが持っています。すべての人が幸せになるにはどうすればよいでしょうか。温かい気持ちで、相手の身になって考える、そんな村づくりをします。

共同作業所「こぶし園」の作業風景



# ビジョン5

## 安心して快適に くらしせる村

おいしい空気と清潔な水、安心して食事ができる村、また災害や事故を防ぎ安全にくらせる村を目指します。そのために、環境衛生を充実させ、村民のモラルの高揚による浄化運動を図ります。また災害に備え、より強力な安全体制をつくります。



豊かな自然に囲まれ、源泉の水も得られる村。快適なくらしの基礎的条件である自然環境に恵まれていても、それを守っていかなければ保てません。近代化によって緑が失われつつあるのは反面仕方のないことかもしれませんが、悲しむべきことです。公害を未然に防ぎ、いつまでも緑を絶やさない村でありたいと願います。

また村全体が安全であることも快適なくらしの条件です。昔に比べ交通事情も随分変わってきました。運転者・歩行者両方の注意と譲り合いの精神で、事故をなくしていきたいものです。

不慮の災害には、日頃の備えが肝心です。災害に負けない体制づくりを進めます。

住宅団地の建築風景



豊丘村  
ふらっと散歩。

ふらっと散歩"豊丘らしさ"が見えてくる。



新九郎滝



泉龍院



十六羅漢



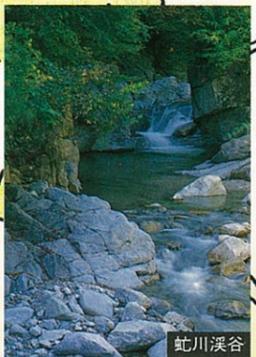
三色藤



河野人形頭



林業師如来木彫座像



蛇川溪谷



天竜川のあゆつり

R153

市田

下市田

人口……7524人  
世帯数……1822世帯  
総面積……76.29km<sup>2</sup>  
(昭和63年11月1日現在)



### ■位置と地勢

豊丘村は下伊那郡の竜東北部に位置し、東は鬼面山および大西山等、伊那山脈を境として大鹿村、上村に続き、南は高関山を境に喬木村に接しています。また、西は天竜川を隔てて高森町、松川町に相對し、北は間沢川をはさんで松川町生田に接しています。総面積は76.29 km<sup>2</sup>で、東西10.5 km、南北7.5 kmの地形は、山林がほぼ75%を占め、集落の形成は天竜川沿岸の下段地帯、河岸段丘を重ねる中段地帯および山間地域に大別されます。

地質は、天竜川の沖積地帯（下段）、伊那層上に火山灰を堆積した洪積台地（中段）、花崗岩の基盤上を砂質土で覆った山間地帯（上段）から成っており、伊那山脈に源を發する壬生沢川、虻川、漆沢川、芦部川、寺沢川、市の沢川、間沢川の各川が、いずれも段丘を横断して溪谷をつくり、天竜川に注ぐなど、起伏に富んだ静かな村です。

### ■沿革

本村は上代の伴野庄の中心地域で平安時代は上西門院の御領地であり、鎌倉時代になって地頭として知久氏が久堅に拠り、次第に勢力を拡張するに及んで同氏の統治下に入り、吉野室町の両時代を経過した。

戦国の世となって知久氏は一旦滅び、武田、織田、豊臣等の諸氏の支配を轉々としたが、徳川氏の政治が安定するに及んで、河野、堀越、田村は再び阿島知久氏の知行所となり、林は幕府の直轄地、すなわち天領となって上伊那飯島代官所の支配に属した。また伴野、壬生沢、福島は美濃高須藩松平氏の所領となって山本村の竹佐代官の支配する所であった。

明治のはじめ、虻川以北の地域は伊那県に、以南の地域は名古屋藩県に属したが、明治4年全地域筑摩県下に編入せられた。

明治8年、河野は生田と合併したが、同14年再び別れて、河野村となった。しかし、役場は生田と連合して福与にあった。（連合戸長役場）明治22年町村制施行に伴い役場も別々になった。

一方、田村、林、壬生沢、伴野、福島の地域は、明治8年に合併して神稲村をつくり、明治9年には、両村とも長野県の所管に入った。その後、明治、大正から、昭和へ続き、昭和30年4月、河野、神稲両村が合併して豊丘村の誕生をみるに至った。



村章



村花「こぶし」



村木「赤松」

### 豊丘村民憲章

- 一、緑と清流を、こよなく愛する村にしましょう。
- 一、教育を重んじ、文化のかおり高い、平和な村にしましょう。
- 一、産業をおこし、若い力を育て、活力ある村にしましょう。
- 一、思いやりの心を持ち、希望のある、福祉の村にしましょう。
- 一、あいさつをかわし、明るい家庭をつくり、住みよい村にしましょう。

### 豊丘村村歌

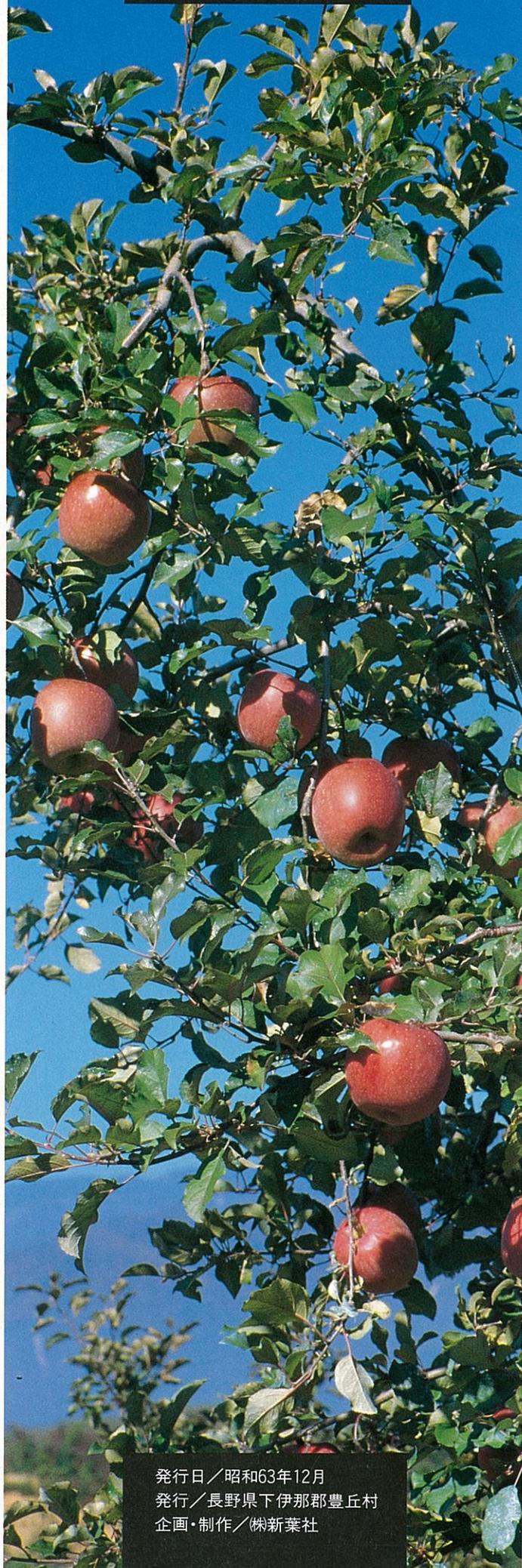
作詩者 川中島敏人  
補作者 池田寿一  
作曲者 市瀬大直

一、山脈たかく みどり薫りて  
朝光きざす 駒ヶ嶺仰ぎ  
おどる若鮎 天龍に  
映る わが豊丘 心のふるさと

二、叡知と汗に いのち覚めて  
柿はかがやき 林檎たわわに  
みのり豊けし 明日の道  
拓く わが豊丘 潤いのさと

三、継ぎ来し代々の 歴史も永く  
たかき文化を よろこび築く  
若きちからのたぎる村  
進め わが豊丘 永遠のふるさと

ホットライン  
とよおか



発行日／昭和63年12月  
発行／長野県下伊那郡豊丘村  
企画・制作／榎新業社